

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	文化拠点の活性化事業					
予 算 額	5,700 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市内には、ギャラリー、ライブハウス、クラブ、ミニシアターや小劇場など、「スモールコミュニティ」の核となる場が点在しており、この公共的な空間において、日々多様な人々が交流し、つながることで、豊かな文化が育まれてきた。</p> <p>しかしながら、家賃、建物の維持管理費や人件費などの経済的問題をはじめ、その存在が知られていないという広報・周知の問題、後継者不足などにより、その存続が危ぶまれているものも少なくない。また、市場経済では成立しにくくなっている、文化芸術の要素を多分に含んだ喫茶店、書店なども市内に多数存在している。（こうした文化拠点を、以下「場」という。）</p> <p>スモールコミュニティが形成される場にはクリエイティブな人材や地域住民など、多層的なつながりがあり、この場を維持・継承することが都市全体の魅力・活力の向上につながる。</p> <p>本取組では、これらの場を、京都の価値である「スモールコミュニティ」の核となる存在として持続・活性化させることで、人々がつどい、交じることを目的とする。</p> <p>さらには、場が活性化することで、この地で活動することに魅力を感じるクリエイティブ人材の移住促進にも寄与する。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>以下の事業に取り組み、場における多層的で緩やかなつながりを豊かにし、文化芸術の振興と地域コミュニティの活性化を目指す。</p>						
<p>1 場のリサーチ</p> <p>京都に精通する方々に文化的な「いきつけ」のギャラリー、ライブハウス等をインタビューし、「文化的いきつけ100選」（仮称）として場の可視化を図る。</p>						
<p>2 場をめぐるツアー</p> <p>京都のコアなファンや、場に興味のある方を対象に、リサーチで得た場をめぐるツアーを開催し、新たなファンの醸成に繋げる。</p>						
<p>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	芸術文化特別奨励制度		
予 算 額	2,500 千円 (全体事業費 6,922 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		

## [事業実施に至る経過・背景など]

平成12年から実施してきた芸術文化特別奨励制度は、市内で活動する若手芸術家等を対象に、活動経費に対する奨励金を交付し将来の飛躍に向けた活動を支援する制度であり、1個人又は1グループにつき300万円の奨励金を交付するもので、これまでに47組の奨励者を認定してきた。

これまでに多くの奨励者が奨励後に国内の公的機関から表彰を受けるなど、飛躍へつながる制度として、京都市が他の自治体に先駆けて実施してきたものである。本事業は京都の若手アーティストを支援し、その活動を促進する要素の一つとなっている。また、ステップアップを目指す上での大きな目標となり、励みとなっている。

今後、奨励者とのつながりをより一層強化し継続した支援を図るとともに、本事業をさらに充実させることで、奨励者の更なる飛躍や文化芸術都市・京都の新たな担い手の蓄積を目指す。

## [事業概要]

### 芸術センター等による伴走支援の実施（充実）

奨励後の活動や広報サポートなど、専門のコーディネーター等のスタッフによる伴走支援を行うことで、奨励者自身が取り組みたい活動内容とその支援・相談の窓口を明確なものとし、アーティストの活躍をより確かなものとする。

伴走支援の対象となる奨励者については、直近で認定された奨励者だけではなくこれまでの奨励者も含める。支援については奨励者が求めるタイミングで、奨励者へのヒアリングを通して効果的な伴走支援につなげるとともに、若手アーティストが飛躍するための効果的な支援策について、専門知識やノウハウの蓄積を目指す。

## [参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	寛永行幸四百年祭					
予 算 額	11,000 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-4200)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>						
寛永3年（1626年）、徳川幕府（徳川秀忠・家光）が後水尾天皇を二条城にお迎えし、5日間にわたって様々なおもてなしを行った「寛永行幸」が実施された。後水尾天皇ら朝廷方と、将軍家光と全国の大名ら幕府方、総勢約9,000人の大パレードは、公武融和と平和の時代の到来を世に知らしめ、京都のまちに熱狂と賑わいをもたらした。						
また、この時代の京都では、茶道・華道・書道・絵画・工芸などの様々なジャンルにおいて新趣に富んだ文化芸術活動が行われ、「寛永文化」と称される多様な文化が花開いていた。						
令和8年、「寛永行幸」から400年の節目を迎えるに当たり、「文化庁連携プラットフォーム」のプロジェクトとして「寛永行幸四百年祭」を実施し、「寛永行幸」「寛永文化」をテーマにした各種事業にオール京都（※）で取り組むことにより、二条城の新たなブランドの確立や、京都の伝統文化の継承や担い手の育成、伝統産業の振興等につなげる。						
※ 寛永行幸四百年祭実行委員会：京都の行政、経済界、文化関係団体等で構成する「文化庁連携プラットフォーム」内において令和7年8月に立ち上げた、四百年祭の実行組織						
<b>[事業概要]</b>						
全国に影響を与えた「寛永行幸」「寛永文化」の特徴を活かし、オール京都での事業実施はもとより、文化庁や他都市の企業・団体等とも連携しながら各種事業や情報発信を行うことにより、全国的にも広がりのあるプロジェクトとして取り組む。						
1 寛永行幸行列の再現						
四百年祭の象徴的な事業として、御所から二条城へ向かった後水尾天皇の壮麗な行幸行列を、文献や風俗考証に基づく <u>本物志向の時代行列として再現するイベント</u> を、 <u>令和8年12月6日（日）に実施する</u> 。						
2 二条城の新たなブランディング						
二条城・二の丸御殿における新たな展示企画を実施するほか、 <u>「寛永行幸」を切り口にした二条城の新たな魅力の発信</u> に年間を通じて取り組む。また、「二条城障壁画 展示収蔵館」をはじめとする <u>市内の複数のミュージアム</u> において連携した展示企画を行う。						
3 「寛永文化」の普及啓発						
<u>「寛永文化」の理解を深めるための文化講座を年間を通じて実施するほか、寛永をテーマにした新たな広域観光の促進や旅行商品の造成に取り組む</u> 。また、京都をはじめとする <u>全国の寛永ゆかりの関連事業</u> を一体的に実施し、その情報発信に取り組む。						
<b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						
府市協調事業						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局、産業観光局

事務事業名	国内外のクリエイティブ人材が京都につどい・交じり・創造する仕組みづくり					
予 算 額	121,000 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119) クリエイティブ産業振興室(222-3337)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 京都市では、人口減少、特に若年層・子育て世代の市外流出が課題となっている。一方、世界で活躍する芸術家・事業家等からの、京都の文化や精神性からアイデアを得る目的で京都を訪れたい、というニーズが存在する。しかしながら、ノウハウを持った施設や人材の不足により、十分に受け入れることができない。また、京都の若者・地域と交流する仕組みが不足しており、創造的な「交ざり合い」が行われる機会を逸している状況である。加えて、京都に移住を希望する芸術家等が多数存在するが、定住・移住に必要な3要素(住まい・仕事・コミュニティ)が得られる環境・情報が不十分な状況である。このような状況を踏まえ、クリエイティブ人材を呼び込み、若者や地域との交流機会を創出する仕組みづくりを本格的に実施するとともに、定住・移住の推進に取り組むことで、芸術家やカルチャープレナー(文化起業家、以下「CP」と言う。)等のクリエイティブ人材を集積させる。そして、交流の中から独創的な視点やアイデアが生まれることで、新たな文化や産業の創出、地域課題の解決等につなげるとともに、人口減少の緩和に寄与するものとする。						
<b>[事業概要]</b> 1 京都と世界が創造的に滞在・交流する仕組みづくり「*** in Residence Kyoto (アスタリスク・イン・レジデンス)」 事務局を設置し、レジデンス施設のスタートアップ支援を継続するとともに、海外との連携により、多くのクリエイティブ人材を受け入れる。同時に、コーディネーターの育成講座等の実施や区HUBとの連携により、地域とつなぐ機会の充実を図る。また、大学生と地域、クリエイティブ人材が協働し、市営住宅等の空き物件を活用した交流拠点を創出する。さらに、クリエイティブ人材と京都の伝統産業事業者が交流し、互いの知見を交換する機会を創出することで、伝統産業業界の活性化にもつなげる。 2 芸術家等の定住・移住推進事業 令和5年度から開始した京都市文化芸術総合相談窓口(KACCO)での移住等の相談窓口を継続する。また、市営住宅の活用、移住者・移住希望者向けツアー、文化芸術関係者向けのジョブフェアの開催などにより、芸術家等の定住・移住促進につなげる。						

### 3 カルチャープレナーの創造活動促進事業

京都を、文化にビジネスの観点を取り入れ新たな価値を生み出すCPの聖地とするため、全国を対象にリサーチし選ばれたCPが集い、京都の企業や若者等と交流するコミュニティを形成するとともに、民間団体等とも連携し、CPの育成や成長に繋がる支援策について研究を進める。

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	対話から学ぶ学藝力フェ					
予 算 額	10,400 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都には多くの大学が集積し、研究成果や書籍などの知の財産が豊富にあるが、それらが学内に留まり、市民が日常的に触れる機会が限られている状況にある。また、教員の退官に伴い、長年の貴重な研究資料が散逸しているという課題も抱えている。</p> <p>一方、図書館や学校などをはじめとする公共空間を、市民など多様な人々が気軽につどい・つながり・交ざり合う場として見直し、新たな価値を創出することが期待されている。</p> <p>このような状況を踏まえ、各大学等に集積する書籍や研究資料に市民が日常の中で気軽に触れ、学び交流できる場を創出することで、大学の知的資源を市民生活に接続し、新京都戦略が掲げる「学藝あふれるまち」の実現を推進していく。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>京都市内の大学等の貴重な書籍や研究資料について、京都市立芸術大学と連携して、学び・研究のための開かれた場を創出し、市民向け講座や研究発表等を通じて、知的交流を促進する。</p> <p>あわせて、大学の知的資源を学内に留めるのではなく、喫茶店や銭湯、区役所等の様々な人がつどい場所へも提供し、これらの場において、対話など親しみやすい手法によるワークショップを実施することで、大学の研究に触れる敷居を下げ、市民と研究者が楽しみながら学び合い、交ざり合う場を創出する。</p>						
<p>[参考 (他都市の状況・事業効果など) ]</p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	文化財修理サイクルの確立に向けた修理助成制度の再構築					
予 算 額	200,000 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化財保護課(222-3130)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 市指定登録文化財をはじめとした京都市内に数多くある文化財は、京都のみならず我が国の生活、歴史、文化の理解のために欠くことのできないものであり、国民・市民のかけがえのない公共財産として、将来にわたって確実に保存継承していくべきものである。 これらの市指定文化財等の保存と活用の更なる好循環を創出し、持続的な維持継承に繋げていくためには、文化財ごとの修理周期を把握し、適切な時期に必要な修理を実施できる修理サイクルの構築が必要であるため、その実現に向けて、従来の助成制度の充実等の取組を行う。						
<b>[事業概要]</b> <b>1 市指定文化財等修理事業等への助成</b> 令和7年度では、通常の修理改修等、耐震化に係る設計・調査等、建造物の大規模修理等といった事業内容ごとに補助メニューを設定し、それぞれの予算額を定めていたが、令和8年度はこれらのメニューを統合することで、多様な修理需要に対して柔軟に助成を行う。 <b>2 国指定文化財修理事業への助成</b> 市内の国指定文化財は、京都の歴史や文化、街並み等の景観を構成する非常に重要な要素の一つで、文化・景観等の魅力の源泉でもあり、文化庁からは各自治体においても国に随伴して補助を行うことが求められている。近年、物価高騰やインバウンドの増加等により、所有者の負担は増加していることなどから、国指定文化財への随伴補助を実施する。 <b>3 適切な修理サイクル構築に向けた調査等</b> 適切な文化財修理サイクルの構築を目指し、文化財ごとの適切な修理時期を把握するための調査を行うとともに、所有者負担の軽減に向けた検討を行う。						
<b>[参考 (他都市の状況・事業効果など) ]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	天然記念物深泥池生物群集保存活用推進事業					
予 算 額	4,000 千円 (全体事業費 5,816 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化財保護課(222-3130)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 深泥池は温暖な京都市街地に位置しながら、氷期（1～7万年前）からの生き残りとみられる植物をはじめとした希少な動植物の生息・繁殖地となっているなど、学術的に貴重な泥炭湿地であり、池に生息する在来の生物全て及び隣接する森林が「深泥池生物群集」として、国の天然記念物に指定されている。 一方で、近年の気候変動や外来生物の繁殖等により、深泥池の生態系への影響が懸念されており、深泥池の本質的価値である動植物相の保全が課題となっていることから、京都市は、これまで水質のモニタリングや外来生物の除去などの取組とともに公有化を進めており、令和7年度に天然記念物に指定されている土地のほとんどを公有化した。 これを機に、これまでの保全の取組を加速化させるとともに、深泥池の価値発信の強化や深泥池をより親しみやすい空間とするための整備を行うなど、活用に向けた取組を進めいく。						
<b>[事業概要]</b> 深泥池生物群集の維持継承のためには、深泥池の生態系に影響を与えない範囲で保存と活用の取組をバランスよく進めていくとともに、機運醸成が肝要である。そのためには保存活用計画を策定する必要があるが、直近の動植物相調査から45年が経過しており、計画策定に向けては、近年の気候変動の影響が深泥池に与えた影響を探る意味でも、改めて動植物相調査を行う必要がある。 令和8年度は、従来の保全の取組に加え、保存活用計画策定のための動植物相調査に向けた、有識者による検討会の設置・開催や価値発信、空間整備等を行う。 <ol style="list-style-type: none"><li>1 動植物相調査に向けた検討会の開催等 動物、植物、池沼、環境に関する専門家を集めた検討会の設置・開催と他都市の先行事例の調査を行う。</li><li>2 価値発信 深泥池生物群集について、ホームページを刷新するなど、より訴求力のある手法で価値発信を行い、深泥池をはじめとした天然記念物の価値や生物多様性の保全の必要性について、理解の促進を図る。</li><li>3 空間整備 深泥池保全の加速化に向けて、まずは簡易な動線の整備、敷地内の環境美化を行うとともに、活用に向けた取組として、池の成り立ちや特殊な環境が育む動植物相を紹介する案内板の設置を行う。これらの整備等は動植物相に影響を与えないよう実施する。</li></ol> <b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	古文書等の維持継承推進事業					
予 算 額	11,000 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	歴史資料館(241-4312)					
[事業実施に至る経過・背景など]						
<p>京都には、指定登録には至らずとも、京都の人々の生活、歴史と文化の理解のために欠くことのできない文化遺産が数多く存在する。そうした中で、これらを紐解くための鍵となる情報を文字によって直接今に伝える古文書等については、市史編纂事業等により調査、収集を実施してきたところであるが、市内にはまだまだ存在が知られていない古文書等が多数存在すると推定される。価値が明らかになる前に古文書等が失われることがないようにするためにには、社会全体でこれらを守るという機運を醸成していく必要がある。</p>						
[事業概要]						
<p>市内に多数存在すると推定される古文書等の維持継承を推進していくためには、古文書等の価値や重要性を効果的に発信し、浸透させるとともに、保護に資する取組を行う団体等の裾野を広げていくことが重要である。</p>						
<p>そのため、令和8年度においては、次の事業に取り組むことで、古文書等の維持継承に向けた機運醸成を図る。</p>						
1 歴史資料館における古文書等調査の実施						
<p>町家の減少が著しい上・中・下京区の市内中心部の旧宅等が所蔵する古文書等を対象に、リーディング的に調査を実施するとともに、この成果等を効果的に発信する。（広報、企画展、シンポジウム開催等）</p>						
2 古文書等相談会の実施						
<p>古文書等の取扱い等に悩みを抱える所有者の声に応えるための相談会を実施する。（年2回想定）</p>						
3 古文書等情報の発信の強化						
<p>歴史資料館において把握している古文書等の情報を整理し、順次公開することで、大学等による古文書等調査を促進する。</p>						
4 古文書等保護活動の裾野の拡大						
<p>古文書講座の参加者に対して、古文書等保護活動への協力を働きかけ、同活動の裾野を拡大する。</p>						
[参考（他都市の状況・事業効果など）]						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都芸術センターの運営基盤強化		
予 算 額	25,000 千円 (全体事業費 162,907 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)		

## [事業実施に至る経過・背景など]

京都市では、文化芸術を総合的に振興するため、多様な芸術活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、芸術を通した交流を図るため「京都芸術センター」を運営している。

平成12年度の開設以降、アートコーディネーターやプログラムディレクター等の専門人材が中心となり、新進芸術家の制作活動をサポートし、国内外で活躍する芸術家を生み出すなど、京都で若い芸術家が活動する拠点として成果を上げている。

令和7年度には、事業や施設自体の認知度向上、集客力を高め、ステークホルダー（市民・アーティスト・企業・地域）等との関係性を充実・強化するため、広報マネージャーを配置する等の取組を実施した。引き続き、京都芸術センターが、先駆的・実験的な取組を行い、京都の文化芸術の中心であり続けるために、更なる運営基盤の強化を行い、「文化の継承・創造の基盤整備」を着実に進める。

## [事業概要]

新たに常勤のディレクターを配置し、京都芸術センターで実施する事業のクオリティを高め、京都芸術センターの価値を向上させるとともに、広報マネージャーの継続配置により、広報機能の更なる強化を実施し、市民・アーティスト・企業等に対し認知を向上させ関係強化を図る。

### 1 ディレクター（マネジメント人材）の配置

常勤のディレクター1名を配置することにより、戦略的・中長期的な視点で事業を企画・運営し、先駆的・実験的な事業を推進することで、京都芸術センターの存在価値を高め、新たな来場者・アーティストなど突き抜けた人材を呼び込む。

### 2 広報機能強化

SNSの活用等も含めた発信力の強化を図ることで、市民・アーティスト・企業等に対し、認知・評価を向上させるための戦略的な広報を行い、ブランド力や認知を高め、コミュニケーションを強化する。

## [参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都コンサートホール魅力向上事業					
予 算 額	12,000 千円 (全体事業費 109,880 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実			
担 当 課	文化芸術都市推進室 文化芸術企画課(222-3119)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都コンサートホールは、平成7年、世界文化自由都市宣言を具体的に推進していくための事業として建設された「京都が誇るクラシック音楽の殿堂」であり、京都市交響楽団の本拠地でもある。これまでに、京都市交響楽団をはじめとした国内外のオーケストラ等の公演を通じて市民の皆様に高水準の音楽を提供してきたほか、次代を担う若き芸術家の発表や、世代を超えた交流の場としての役割を果たしてきた。</p> <p>一方、開館から30年が経過し、施設・設備の老朽化等が進んでおり、機能維持や安全性向上、長寿命化に向けた対応が求められている。大規模改修を機に、京都コンサートホールの魅力を向上し、将来にわたり京都の音楽芸術文化の価値を高め続けるため、令和6年10月に策定した京都コンサートホール魅力向上方針に基づく取組を進める。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>1 大規模改修に係る実施設計の実施</p> <p>大規模改修は、西日本最大級を誇るパイプオルガンのオーバーホールに加え、施設運営を行なながらの改修が困難な舞台設備・電気設備・機械設備の更新、特定天井の改修、エレベーターの新設、トイレの増設等を実施予定であり、これらに必要な実施設計を実施する。</p> <p>＜大規模改修の予定＞</p> <p>令和8年度～令和9年度 実施設計</p> <p>令和10年度～令和12年度 工事（令和11年度以降閉館期間あり）</p> <p>令和13年度 リニューアルオープン</p> <p>2 京都コンサートホールにおける京都市交響楽団リハーサルの実施（充実）</p> <p>現在、京響の定期演奏会リハーサルについては、一部を練習場（北区出雲路立本町）で実施しているが、全てを本番環境と同じ京都コンサートホールで実施することにより京響の演奏力の更なる向上を図るもの。</p>						
<p>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	身近な地域におけるゆるやかなつながりの形成・促進					
予 算 額	16,600 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	地域自治推進室 連携改革・区政担当(222-3047)					
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b></p> <p>京都市では、これまで住民一人ひとりが、子育て世代や高齢者の見守り、防災、お祭り、伝統文化の継承など、立場や肩書きを超えて地域コミュニティの一員として活動に取り組み、市民の高い自治意識や、京都の「まち柄」を育んできた。</p> <p>しかし、日本全体で人口減少や少子化高齢化が進み、単身世帯の増加や、暮らし方、働き方、人々のつながり方の多様化を背景に、身近な地域におけるつながりの希薄化や地域活動の担い手不足が生じており、地域を支える機能が低下していくことが懸念される。</p> <p>これまで住民一人ひとりが誇りをもって取り組んできたまちづくりを継承し、誰もが安心して自分らしく参加できる地域社会を未来に繋げていくためには、身近な地域における活動が時代の変化に即した在り方に対応していくことや、幅広い世代や多様な主体が交ざり合いながら地域活動に関わっていける「ゆるやかでひらかれたつながり」を紡いでいくことが重要である。</p> <p>以上のこと踏まえて、ICTを活用した地域活動の負担軽減や幅広い世代が参画しやすい基盤づくりに取り組むとともに、様々な主体が地域活動に参加していくための仕組みづくりを進める。</p>						
<p><b>[事業概要]</b></p> <p><b>1 学生・企業等と地域との連携促進事業</b></p> <p>住んでいる地域だけではなく、勤務先や通学先での地域活動を推進するとともに、企業、大学等の多様な主体が、それぞれの得意分野や専門性を活かしながら、地域活動に主体的・継続的に参加するためのきっかけづくりや伴走支援等を行う。</p> <p><b>2 地域ICTプラットフォーム構築事業</b></p> <p>連絡調整に係る負担が少なく、幅広い世代が参画しやすい地域コミュニティを目指し、地域のデジタル化等を推進するため、電子回覧板等のスマートフォンアプリを用いた連絡ツールを導入し、行政と地域コミュニティをつなぐICTプラットフォームを構築する。</p>						
<p><b>[参考 (他都市の状況・事業効果など) ]</b></p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

## 文化市民局、教育委員会事務局

事務事業名	多様な主体で創り合うまちづくりの推進		
予 算 額	60,400 千円 (全体事業費 92,265 千円のうち充実分)	新規・充実・継続の別	充実
担 当 課	地域自治推進室 連携改革・区政担当(222-3047) 生涯学習部 施設運営担当(801-8822)		

### [事業実施に至る経過・背景など]

日本全体で人口減少と少子化・高齢化が進み、単身世帯や高齢者のみの世帯が増加するなど、社会の構造が大きな変わり目を迎える中、公・共・私のそれぞれの暮らしを支える機能が低下していくことが予見される。

とりわけ、身近な地域においては、人々の暮らし方や働き方が変わっていく中で、つながりの希薄化や自治会加入率の低下に伴う地域活動の担い手不足、役を担う一部の人たちへの負担などが多くの地域で起きている。

このような中、持続可能な地域コミュニティの実現を目指し、令和7年度から、多様な人が気軽に参加でき、楽しめる場づくりを行う「地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業」に取り組んでいる。

### [事業概要]

「学藝衆をはじめ地域資源が輝くまちづくりの推進」に向け、以下1、2に取り組む。

#### 1 多様な主体の交ざり合いや学び合いの場づくりによる居場所と出番の創出

区地域コミュニティHub(※)（以下「区Hub」）が中心となって、多様な主体の知見・専門性を活かし、思わず参加したくなる場づくりや、参加者の主体性を引き出し、次なる活動への参画に繋げるコーディネートを進めるとともに、地域の匠や語り部など京都学藝衆による夢中になれる学び合いを通じて、ゆるやかでひらかれたつながりを創出する。

また、地域学校協働活動推進員と区Hubの協働の下、多様な主体によるつながり・支え合いや、交ざり合い・学び合いの場づくりを一層推進する。

◎「京都ならではの学校を核とした地域づくりの推進～「コミュニティ・スクール」から「スクール・コミュニティ」へ～」と連携（教育委員会事務局の事業ページ参照）

※ 市民に最も身近な区役所・支所を結節点として、全庁一丸となって政策を推進していくことを目的として、全区役所・支所に設置（令和7年4月）

#### 2 区役所庁舎等における公共空間のアップデート

区Hubと図書館による連携プロジェクトとして、西京区役所及び洛西支所の庁舎や庁舎前スペースを本のある居心地の良い空間にアップデートし、若者の居場所や地域の交流拠点となるサードプレイスを多様な主体と共に創り上げる。

また、内装の木質化や木製品の導入により、木の温もりを実感できる居心地の良い空間とすることでサードプレイスとしての効果を高める。

◎「市内産木材の利用拡大に向けた調査・木の空間づくり事業」と連携（産業観光局の事業

ページ参照)

なお、本のある居心地の良い空間の創出については、教育委員会において策定予定の「図書館パブリック「テラス」グランドデザイン（仮）」の先行事例として実施する。

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	柳辻地域及び醍醐地域におけるまちの未来像検討					
予 算 額	50,000 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	地域自治推進室(222-3047)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 京都市では、地域の魅力やポテンシャルを最大限活かし、あらゆる世代がワクワクするような山科・醍醐を地域の皆様とともに目指すため、地域活性化プロジェクト「meetus(ミータス) 山科-醍醐」を進めており、令和7年3月にまちづくりの方向性や具体策を「みんなで創るまちPLAN」として取りまとめた。 同PLANに掲げる取組のうち、公共施設が多く集積する柳辻地域及び醍醐地域について、取組の具体化に向けて「地域コミュニティHub <sup>※1</sup> 」にタスクフォース <sup>※2</sup> を設置し、全庁体制で推進している。 令和8年度は、多様な主体 <sup>※3</sup> とまちの未来像について対話を重ねるとともに、公共施設等の活用や再編に係る方向性を検討する。						
※1 市民に最も身近な区役所・支所を結節点として、全庁一丸となって政策を推進していくことを目的として、全区役所・支所及び市役所にそれぞれ区地域コミュニティHub及び市地域コミュニティHubを設置(令和7年4月) ※2 特定の課題に集中的に取り組むために、市地域コミュニティHubに設置する関係局区長等を構成員とする組織 ※3 市民や地域企業、福祉関係団体、大学、大学生、NPO等						
<b>[事業概要]</b> 1 市民や多様な主体との対話 地域内外の多様な主体や市民の皆様との関係を構築するための場づくりを進めつつ、まちへの愛着や誇りを深掘りし、地域資源や地域のポテンシャルを再発見するための対話を積み重ねることで、まちの未来像を描いていく。  2 まちの未来像実現に向けた公共施設等の活用や再編の検討 まちの魅力向上や若者・子育て世代の定住・移住等に向けて、まちの未来像の実現に資する公共施設等の活用や再編を検討する。 (1) 柳辻地域の公共施設等の活用や再編等に係る検討 山科区役所をはじめとする公共施設等の活用や将来的な再編を見据えた基礎調査・検討 等 (2) 醍醐地域の公共施設等の活用や再編等に係る検討 ア パセオ・ダイゴローや折戸公園、緑道など醍醐駅周辺の公共空間等の活用や、醍醐寺等との協働に向けた機運醸成 イ 公共施設等の活用や将来的な再編を見据えた基礎調査・検討、石田駅周辺の市営住宅団地の将来的な再編を見据えた公有地の活用に係る検討 等						
<b>[参考(他都市の状況・事業効果など)]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局、保健福祉局

事務事業名	スマート区役所の推進に資する取組					
予 算 額	131,200 千円 (全体事業費 462,783 千円のうち充実分) (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	充実			
担 当 課	<p>地域自治推進室(222-3048) 福祉のまちづくり推進室(222-3535) 障害保健福祉推進室(222-4161) こころの健康増進センター(314-0355)</p>					
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b></p> <p>京都市では、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を念頭に、市民の利便性と業務効率の向上に向け、区役所業務のデジタル化を推進している。</p> <p>令和8年度は、区役所業務について区役所と市役所の職員が一緒になって議論する「区役所業務改革タスクフォース」での取組も踏まえ、「書かない窓口」等の市民サービスの向上、生成AIの活用等による業務の効率化、全ての職員がいきいきと安心して活躍できる組織づくりに向けた働く環境のアップデートの取組を行う。</p> <p>デジタル技術も活用したこれらの取組を通じ、しごとに余白を生み出し、職員が自身の業務を超えたチャレンジによりポテンシャルを最大限発揮していく。</p>						
<p><b>[事業概要]</b></p> <p><u>1 申請書の作成を支援する「書かない窓口システム」の導入</u></p> <p>窓口で手続を行う際に作成する申請書には住所、氏名、申請内容等を記入する必要があるが、手続によっては同じ内容を何回も書く場合があり、市民の負担になっていることから、マイナンバーカード等の住所、氏名等を自動的に転記して申請書を作成するシステムを各区・支所市民総合窓口室等へ導入する。</p> <p><u>2 デジタルツールを活用した内部事務の効率化</u></p> <p>生活保護業務において、管理事務や書類提出へのローコードツールの活用のほか、生成AIによる業務支援、金融機関等に対する照会業務のオンライン化を行う。</p> <p>など</p> <p>詳細別紙</p>						
<p><b>[参考 (他都市の状況・事業効果など) ]</b></p>						

スマート区役所の推進に資する取組 別紙

※ ①市民サービスの向上、②業務の効率化、③働く環境のアップデート

No.	名称 取組項目※、予算額	概要	担当課
1	申請書の作成を支援する「書かない窓口システム」の導入 ①42,000 千円	区・支所に設置した専用端末で申請内容を選択し、マイナンバーカードや運転免許証等の公的証明書を読み込ませると、氏名、住所、生年月日、性別が転記された申請書をプリンタから印刷するシステムを導入する。	地域自治推進室
2	障害者向け制度説明動画の活用による市民サービス向上と業務効率化 ①3,300 千円	各種障害者手帳の交付時等に説明する障害福祉施策等の内容をわかりやすくまとめた動画を作成し、窓口以外の場所(自宅等)でも視聴できるようWEB上に公開する。	障害保健福祉推進室
3	精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院)申請のオンライン化 ①②10,600 千円	精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費(精神通院)について、オンライン申請の導入と申請データの取込によるシステム入力事務の効率化を行う。	こころの健康増進センター
4	生活保護業務におけるデジタルツールを活用した内部事務の効率化 ①②26,800 千円	<p>&lt;生活保護業務のデジタル化&gt; ロードマップを活用し、内部管理事務を効率化するとともに、オンラインでも一部の書類を提出できる仕組みを構築する。</p> <p>&lt;生活保護関係法令通知の検索エンジンの導入&gt; 生活保護に関する法令・通知等の検索に生成AIを活用し職員の業務を支援する。</p> <p>&lt;照会業務のオンラインサービスの導入&gt; 郵便による金融機関等との間の照会、回答をオンライン化することで事務の迅速化やペーパーレス化を図る。</p>	福祉のまちづくり推進室
5	紙文書の削減・電子化に向けた調査 ②15,400 千円	区役所業務のDX化に当たり、文書を紙で保管していることが課題の1つになっていることから、紙文書を電子化(デジタルデータへ変換)するための現状分析及び検証を行い、業務効率化の具体手法の検討を進める。	地域自治推進室
6	フロントヤード業務の充実(債務負担行為設定) ②8,700 千円	繁忙期における柔軟な窓口体制の構築や業務の効率化に向け、区役所におけるフロントヤードの更なる充実を図る。	
7	働く環境のアップデート ・電話の録音(債務負担行為設定) ・防犯カメラ ③24,400 千円	職員が働きやすい職場づくりと公正な職務の執行の推進に向けたカスタマーハラスメント(職員に対する暴言、脅迫、過度な要求等の迷惑行為)の抑止や市民応対力の向上を図るため、全ての区・支所で電話の通話録音の導入と防犯カメラの増設を行う。	

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	地域と共に創り上げるウィングス京都の機能のアップデート					
予 算 額	20,000 千円	新規・充実・継続の別	新規			
担 当 課	共生社会推進室(222-3091)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）では、男女共同参画施策を一層推進するため、施設認知度の更なる向上、幅広い世代の利用促進に向け、民間活力も取り入れながら、魅力に満ちた、より開かれた公共空間・施設づくりに取り組んでいる。 当施設は、公園や小学校に隣接するなど、若者や子育て世代など多様な人々が集まる恵まれた立地にある。こうした特性も活かし、地域住民や多様な方々に愛され、育まれる公共空間へと進化させるために、市民参加型の対話を通じて具体的な活用の姿（デザイン）を可視化すること、また、施設利用の利便性を高めるDX化を推進することで、機能のアップデートを図る。						
<b>[事業概要]</b> ウィングス京都の機能強化に向け、市民参加による空間づくりの検討と、利用者の利便性向上のためのDX化を実施する。  1 市民参加型ワークショップ等による空間デザイン検討 男女共同参画施策を一層推進するため、ウィングス京都と御射山公園の一体的な活用や関係施設との連携、施設認知度の向上、民間活力導入効果の地域への波及といったことについて、市民参加型のワークショップ等により、地域と共に検討を進める。  2 ウィングス京都のDX化（オンライン予約・キャッシュレス決済導入等） 現在、会議室、ホール等を利用する際、来館による利用申込、現金での料金支払いが必要であるが、オンライン予約システムを導入し、利用申込から支払いまでの一連の手続をオンラインで完結させることで、利用者の利便性向上及び窓口業務の効率化を目指す。併せて、1階に入居予定の民間事業者とも連携し、デジタル技術を活用した更なる利便性の向上や運営効率化に取り組む。						
<b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」大会PR及び開催準備並びに受入環境整備事業					
予 算 額	172,200 千円	新規・充実・継続の別	充実			
担 当 課	市民スポーツ振興室(222-3134)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>ワールドマスターズゲームズは、国際マスターズゲームズ協会が主宰する、概ね30歳以上であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会であり、関西大会では13府県政令市において全35競技59種目の実施を予定している。</p> <p>京都市では、2017年4月に京都市長を会長とするワールドマスターズゲームズ京都市実行委員会を設立し、公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会や各競技団体と連携しながら、2021年（令和3年）の開催に向けて取り組んできたが、新型コロナウィルス感染症の影響により、2027年（令和9年）5月へ延期されることとなった。</p> <p>大会開催の直前期となる2026年度（令和8年度）は、大会運営の準備と並行して、2026年3月から開始される大会エントリーの促進のため、更なる大会認知度の向上を図り、大会の機運醸成に取り組み、「する」「みる」「支える」スポーツの振興を推進する。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>大会開催の1年前であり、直前期でもある2026年度（令和8年度）は、節目イベント開催やSNSでの情報発信等により、更なる大会認知度の向上を図るとともに、開会式や4競技（陸上競技、バドミントン、空手道、スカッシュ）をはじめ、マスターズビレッジや医療救護、警備等のマニュアル作成等、大会運営の準備に加え、会場となる西京極総合運動公園のトイレリニューアル等の受入環境向上に取り組む。</p> <p>1 大会認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>各種広報の充実（ポスター・チラシの作成等）</li><li>周知イベントの実施</li></ul> <p>2 大会運営の準備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>開会式及び4競技等のマニュアル作成</li><li>マスターズビレッジ、医療救護、安全危機管理等のマニュアル作成</li><li>ボランティアセンター運営、研修</li></ul> <p>3 西京極総合運動公園の受入環境向上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>園内公衆トイレのリニューアル <u>新設（1箇所）及び改修（1箇所）</u></li><li>誘導サインの整備</li></ul> <p>公園内及び公園周辺（阪急西京極駅から公園へのルートなど）における多言語対応の誘導サインの整備</p>						

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

文化市民局

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」																										
予 算 額	203, 791 千円	新規・充実・継続の別	継続																								
担 当 課	地域自治推進室 連携改革・区政担当(222-3049)																										
[事業実施に至る経過・背景など]																											
<p>区民の自主的、自発的な活動を更に活性化させるため、地域課題の解決や「自分たちのまちは、自分たちでつくっていく」という地域のまちづくりを、区役所が柔軟かつスピーディにしっかりと支えていく協働の仕組みづくりとして、平成24年度に創設し、本市のあらゆる施策のベースとなる「地域力」の強化を図る取組を推進してきた。</p> <p>今後も、新京都戦略で掲げる、すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向け、市民に最も身近な区役所・支所の「結節点」（区 Hub）としての機能を強化し、地域内外の人材の交ざり合いによる多様なコミュニティの形成を支援するなど、持続可能なまちづくりを推進していく。</p>																											
[事業概要]																											
各区における具体的な事業については、各区作成資料のとおり。																											
<p>○ 各区予算額（単位：千円）</p> <table><tbody><tr><td>北 区</td><td>1 4, 9 0 1</td><td>東山区</td><td>1 2, 9 0 4</td><td>右京区</td><td>2 2, 2 1 6</td></tr><tr><td>上京区</td><td>1 3, 1 5 1</td><td>山科区</td><td>2 5, 6 6 5</td><td>西京区</td><td>2 2, 9 8 2</td></tr><tr><td>左京区</td><td>1 9, 4 7 9</td><td>下京区</td><td>1 1, 6 4 4</td><td>伏見区</td><td>3 4, 6 7 5</td></tr><tr><td>中京区</td><td>1 4, 0 0 0</td><td>南 区</td><td>1 2, 1 7 4</td><td>合 計</td><td>2 0 3, 7 9 1</td></tr></tbody></table>				北 区	1 4, 9 0 1	東山区	1 2, 9 0 4	右京区	2 2, 2 1 6	上京区	1 3, 1 5 1	山科区	2 5, 6 6 5	西京区	2 2, 9 8 2	左京区	1 9, 4 7 9	下京区	1 1, 6 4 4	伏見区	3 4, 6 7 5	中京区	1 4, 0 0 0	南 区	1 2, 1 7 4	合 計	2 0 3, 7 9 1
北 区	1 4, 9 0 1	東山区	1 2, 9 0 4	右京区	2 2, 2 1 6																						
上京区	1 3, 1 5 1	山科区	2 5, 6 6 5	西京区	2 2, 9 8 2																						
左京区	1 9, 4 7 9	下京区	1 1, 6 4 4	伏見区	3 4, 6 7 5																						
中京区	1 4, 0 0 0	南 区	1 2, 1 7 4	合 計	2 0 3, 7 9 1																						
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]																											

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

北区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	14,901 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	北区役所 地域力推進室(432-1197)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>						
北区役所では、これまでから区民、区内4大学、商店街、各種機関、企業等の多様な主体がお互いに顔の見える関係性を構築し、“つながり”的力でまちづくりを進めてきた。令和8年度においては、これまで以上に区役所が結節点となり、これまで培ってきた区内の様々な「ヒト・モノ・コト」「場」がさらに連携・融合する取組を推進し、“つながり”的力を一層強めることで、多様な主体が交ざり合うウェルビーイングなまち北区の実現を目指す。						
<b>[事業概要]</b>						
1 北区みんなを結ぶ事業	<u>区役所の交流スペースや休校中の小学校（山間部）を活用し「場づくり」を行う。様々な「人」、「情報」が集まり、交流が生まれる場所とし、ワークショップや講座を開催する。また、小学校の学校運営協議会と連携し、幅広い年代の居場所づくりに向けた取組を行う。</u> さらに、区制70周年記念事業を通じ、好評だった事業等を継続して実施し、区民が文化に触れる機会を提供するとともに交ざり合う場の創出につなげる。					
2 北区民まちづくり提案支援事業	<u>区民の自発的・自主的なまちづくり活動に対し、経費の補助等の支援を行う。令和8年度は、一定程度経験を積んだ団体を対象に「つながり支援枠（仮称）」を新設予定。複数の団体をつなぐ交流の場を設けたり、コーディネートする等の活動に対し、補助率のアップ等を行い、さらなる“つながり”が生まれる仕組みづくりを行う。</u>					
3 船岡山を活かした魅力スポットの創出	<u>船岡山を中心としたエリアの魅力を全国に向けて発信するとともに、地域経済活性化に繋げるため、北区を舞台とする短編小説を募集する「京都キタ短編文学賞」を継続実施。また、令和7年度に好評だった新規事業「北区ふれあい銭湯ツアー」を継続し、船岡山周辺の銭湯を「場」としながら世代を超えた交流を創出する。</u>					
4 「健康長寿のまち・北区」の推進	<u>北区独自の2大事業「キタエちゃん体操」及び「インターバル速歩」の地域での展開を更に進めるため、「北区健康づくり学び講座～健康・仲間・学びでつくる新しい人生～」と題した「連続講座」を開催し、活動の担い手となる健康づくりサポーターの確保及び養成に取り組む。インターバル速歩、キタエちゃん体操だけでなく、栄養、口腔、認知症、ストレスマネジメント、生きがいづくり等、興味を持ちやすい内容を取り入れ、これまで参加に結びつかなかった年代や分野の人に届くような内容とする。</u>					
5 【ニコニコ北っ子】赤ちゃん広場（親子交流事業）	<u>発達を促す遊びや体操の体験や母子保健に関する講話を聞く事業等を新たに実施し、乳児を育てる保護者同士が交流できる場を提供することで、子育て家庭の孤立を防ぎ、乳児の健全な発育・発達を促進する。また、区内の学生ボランティアの協力を得るなど、事業を通して関係機関のネットワークを強化し、地域の子育て支援のさらなる充実に繋げる。</u>					

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

上京区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	13,151 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	上京区役所 地域力推進室(441-5029)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> すべての区民が主人公となって心豊かに暮らせる持続可能な上京区の未来の創造に向か、上京区の特徴である文化力と地域力を活かし、以下の項目を重点方針として取り組む。 <ul style="list-style-type: none"><li>暮らしに息づく「文化」と地域の「絆」の継承</li><li>幅広い世代が、つながり、交ざり合い、支え合う絆を深めるきっかけづくり</li><li>地域愛の向上を目指し、地域の魅力を知り、触れ、体験する機会の創出</li></ul>						
<b>[事業概要]</b> 1 上京区民まちづくり活動支援事業 区民の自発的、主体的なまちづくり活動への補助を通して、地域コミュニティの活性化と区民参加によるまちづくりを進める。 2 上京区民ふれあい事業 上京区民ふれあいまつりや史蹟ウォーキングの開催等を通じて幅広い世代が交流できる場を創出するとともに、上京区の魅力の再発見、地域愛の向上を図る。 3 上京をMOWっとプロジェクト 多くの人が区の魅力を知り、触れ、体験する機会を作るため、次の3事業を実施する。 (1) 上京 de 婚活 「縁」や「絆」をつなぐきっかけづくりや和装文化の振興等を図る婚活事業 (2) おこしやす上京 Season3 「上京の生活に触れる」 <u>区内の魅力ある場所を巡り、地域の魅力に触れ、体験するまち歩きツアー</u> (3) 京菓子ハレモケモ。 「和菓子でつながる地域と暮らし」をテーマにした地域の魅力再発見イベント等 4 上京ふれあいネット「カミング」運営事業 区の情報発信サイト「上京ふれあいネットカミング」及びインスタグラムにより、 <u>区内のまちづくり活動や地域文化等の情報発信の充実に取り組む</u> とともに、取材を通じてきたつながりを活用し、地域コミュニティの活性化を目指す。 5 上京の子どもまつり 子どもたちの健全育成等を目的として、子ども同士のふれあいや地域の伝統産業・文化活動の体験、学習、遊びの場を提供する。 6 上京区ふくしをなんでもしつとこ講座 住み慣れたまちで安心していきいきと暮らすことができる地域づくりを目的に、地域福祉への理解を深めるため、大学や福祉組織と連携して講座を開催する。						

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度 京都市予算案 事業概要

左京区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	19,479 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	左京区役所 地域力推進室(702-1021)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 「市民生活第一」の徹底はもとより、都市の活力の創出、更なる成長に向けた取組を進めるため、区役所の「つなぐ」機能をさらに強化し、様々な主体間のつながりを促進することにより、地域課題の解決につなげる。 人ととのつながりや、居場所や出番を見つけられるような「ゆるやか」で「しなやか」な地域社会を目指し、「更なる地域コミュニティの活性化」「防災対策の向上」「地域の魅力創造発信」に重点的に取り組む。						
<b>[事業概要]</b> <b>1 【更なる地域コミュニティの活性化】</b> 高齢者、障害のある方、子ども、言語や文化的背景が異なる方など、すべての区民が生き生きと暮らし、活躍することができる地域社会の実現を目指し、多様な主体とともに「つながり」や「支え合い」を創出する取組を実施する。 <b>(1) 共創を核とするまちづくり推進事業（充実）</b> 区民が自ら考え、提案し、行動するまちづくりの活動に対して、経費の補助等を行うことで、区民の自主的な取組を促すとともに、左京区役所が、人と人をつなぐ「結節点」の役割を果たし、左京カタリストをはじめ、区民・事業者や様々な団体・機関（まちづくり活動団体、大学など）による地域ネットワークの構築を促すことで、まちづくりの推進と地域課題の解決を目指す。 <b>(2) 左京区民ふれあい事業</b> 区民の区に対する愛着意識の高揚を図り、相互交流を深めるため、各種団体等との協働により、左京区民ふれあいまつり等を実施する。ふれあいまつりでは重点テーマを「子ども」とし、親目線・地域目線・子ども目線で、子どもが安心して過ごせる地域、愛着意識を育てる地域について考える機会を創出する。実施に当たっては、学生や若者を含む様々な主体のアイデアをいかし、更なる地域交流・多世代交流の促進を図る。 <b>2 【防災対策の向上】</b> <b>(1) 災害に強い左京区づくり事業</b> 災害特性に応じた、学区よりも小さい単位の地域での地区防災計画（提案型）の策定を支援する。また、安心安全に避難所運営ができるよう、引き続き、自主防災会に対して必要な備蓄品の購入支援を行う。 <b>3 【地域の魅力創造発信】</b> <b>(1) 区制100周年を見据えた地域の魅力創造発信事業（充実）</b> 令和11年度に左京区制100周年を迎えるに当たり、これまでの事業を整理・統合し、改めて、北部山間地域をはじめ地域の文化や自然、独自の取組等の魅力を発信するとともに、地域で継承されてきた「学藝」を見つめ直し、その魅力や担い手の思い等を次世代へと継承する機会を創出することを目的とする。また、区民が自らの地域の文化に関心と誇りを持ち、担い手となる可能性を広げるとともに、広く区外の方々にも、左京に息づく文化への関心を深めていただくための事業を展開する。						
<b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

中京区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	14,000 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	中京区役所 地域力推進室(812-2421)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 中京地域コミュニティ Hub (中京 Hub) を中心に、積極的に人々や地域資源を把握し、対話を重ね、地縁・志縁・大学・団体などの多様な主体との結節点となり、すべての人に「居場所」と「出番」がある、支え合い、生きがいを持って活躍できるウェルビーイングなまちづくりを推進する。						
<b>[事業概要]</b> 1 中京 Hub によるまちづくり (新規) 多様な主体とのつながりを促進するため、区役所等の身近な公共空間を開く「中京区ボランティアフェス」や「木屋町周辺ごみ拾い活動」などに取り組むほか、「健康長寿のまち・中京」を目指し、大学や有識者と連携した区民主体の健康づくり事業等にも取り組み、すべての人に「居場所」と「出番」があるまちづくりを推進する。 また、中京区応援サイト「なかなか中京」などを活用し、区の歴史や文化など地域の多様な「学藝」を活かし、子ども、若者を軸に大人も巻き込みながら、幅広い世代が学び合える場を創出し、その魅力や価値を次世代に継承していくことを目指す。 2 中京区・京都堀川音楽高等学校連携事業 京都堀川音楽高等学校と連携したコンサートを開催し、区民の更なる芸術・文化振興を高め、地域交流の場を創出する。 3 くらしの中の伝統産業品活用術 京都伝統産業ミュージアムと連携し、現代の日常生活における伝統産業品の使い方を提案し、伝統産業品の魅力を伝えることにより、日々のくらしの中で使う人を増やし、伝統産業品を次世代に継承していくことを目指す。 4 自治会 I C T 化促進支援事業 デジタル回覧板事業やスマート教室を通じて、地域活動の I C T 化を進めることで、情報伝達の迅速化や地域役員の負担軽減を図り、効果的で持続可能な地域活動に向けた支援を行う。 5 地域の I C T 化担い手育成事業 地域と学生団体の交流会（地域×人財ミーティング）を開催し、担い手を掘り起こし、既にデジタル回覧板を導入している学区同士の情報交換会（デジタル回覧板管理者意見交換会）を開催し、取組の効果や課題、先進事例等の情報を共有することにより、担い手を育成する仕組みづくりを行う。						
<b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

東山区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区Hubによるまちづくり推進事業」					
予 算 額	12,904 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	東山区役所 地域力推進室(561-9104)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>以下の項目を重点方針として、区民のウェルビーイングの向上を目指したまちづくりに取り組む。</p> <p>1 区民生活の基本となる「安心・安全」の取組の推進 2 区の課題解決に向けた地域コミュニティHubによる取組の推進 3 これまでの取組を踏まえた定住・移住促進事業の推進</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>1 つながる防災コミュニティの実現</p> <p>防災訓練等を通して、地域・世代が繋がる防災・減災のコミュニティづくりを推進する。今年度は、<u>全市的に実施される避難所運営マニュアルの改定に併せて、講演会やワークショップを実施し、災害に強いまちづくりに繋げていくとともに、備蓄物資の充実など防災対策を推進する。</u></p> <p>2 地域コミュニティHubにおけるマッチング事業</p> <p>地域の課題・社会資源を幅広く捉え、区内で活動する地域団体や事業者等の掘起こしと、相互に交流できる場の設定や課題解決に資すると思われる団体等のマッチング支援を行う。また、課題解決の手法として、「居場所」の創出に取り組む。</p> <p>3 住んでこそ！東山プロジェクト</p> <p>区民・事業者・行政が連携し、定住・移住への意欲を喚起する方策を進め、持続可能な定住意欲の喚起、関係人口の増加及び移住促進へと繋げていく。</p> <p>具体的には、<u>SNSやホームページ等を用いて、区民により身近な東山の情報や移住施策等の情報発信を行い、東山に住む魅力の発信に取り組む。</u></p>						
<p>[参考 (他都市の状況・事業効果など) ]</p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

山科区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	25,665 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	山科区役所 地域力推進室(592-3088)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>山科区は、令和8年度に誕生50周年を迎えることから、この節目を区全体で祝い次世代へつなげていくため、区民をはじめ、地域の関係団体や民間事業者等との協働により、区民参加型の事業や、山科の歴史・風土・魅力を次世代へつなぐための事業を展開する。</p> <p>併せて、山科区の強みである地域のつながりを生かし、「meetus (ミータス) 山科一醍翻プロジェクト」とも連携しながら、多様な主体が参画し、すべての人に「居場所」と「出番」があるまちづくりを推進する。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>1 <u>山科区誕生50周年記念事業（新規）</u> 「次世代へつなぐ」、「リスタートする」をテーマに、<u>記念式典の実施や記念誌の制作、区民参加型のイベントを開催する</u>。また、「山科区民ふれあい事業」や「健康フェスタ」、「健康ウォーキング」等の既存事業を50周年関連事業として位置付け、内容の充実と一体的な展開を図ることで、区全体で祝賀機運を醸成し、地域のつながりを一層深める。</p> <p>2 <u>山科まちづくりチャレンジ応援事業</u> 老若男女を問わず、山科に関わる一人ひとりが、主体的に地域活動を担えるまちを目指し、山科区において新たなまちづくり活動にチャレンジする個人・団体への支援を継続する。 令和8年度は、引き続き相談対応を充実させ、<u>チャレンジャー同士の交流促進や相互の協力・連携に向け、補助金の交付にとどまらない伴走型支援を強化し、次の展開につながる取組を推進する</u>。</p> <p>3 <u>子どもの居場所づくり支援事業</u> 山科区南部エリアにおける青少年の健全な育成や自主的な活動の促進、学習環境の提供を目的に、区役所内のスペースを公共に開放し、中高生年代を対象とした居場所「ゆうすペーすやましな」を運営する。 併せて、運営現場と専門家、学校関係者等が対話・意見交換を行う場を設け、山科区の青少年が抱える多様な課題を踏まえた運営体制の充実や個別支援の検討を行うとともに、安心して過ごすことのできる居場所の提供を通じて、若者の健やかな成長を後押しする。</p>						
<p>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</p>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

## 下京区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	11,644 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	下京区役所 地域力推進室(371-7164)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>						
第3期下京区基本計画で取り組んだ成果や、下京区の特長である自治の精神に基づく地域力、文化・芸術・産業が集積する強みを活かし、誰もが「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」と思えるまちづくりを引き続き進めていく。						
とりわけ、区役所の「つなぐ」機能を一層活かした多様な主体のつながりの促進や、開かれた公共空間づくりによるすべての人への「居場所」と「出番」の創出、また、「京都学藝衆構想」の実現に向け地域におられる特技や技能をお持ちの方と連携した取組を強力に進める。						
1 主体的にまちづくりに取り組む区民、企業・団体、学生が多く存在する強みを生かし、区役所が「結節点」となり連携を促進することによる、協働のまちづくりの推進 2 地域における共助の力の維持・向上や、安心安全、健康長寿の促進を目指した取組の推進 3 子どもたちを対象に身近でスポーツを体験できる機会を創出することで、子育て世代をはじめとして多くの方々に地域への愛着を醸成することによる、定住の促進						
<b>[事業概要]</b>						
1 地域コミュニティ活性化事業 地域の担い手が意見交換を行うワークショップや、地域活動における ICT 化の支援、地域の絆の創出に向けたコミュニティ形成のサポート等を行い、地域コミュニティの活性化を図る。						
2 下京区まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」（充実） 地域や社会が抱える課題を「自分ごと、みんなごと」として捉え、解決に向けて共に取り組む、+GOOD（プラスグッド）な活動のはじめの一歩を応援する補助金制度。 <u>令和8年度は、「学生チャレンジ応援枠」を設け、学生が取り組む活動に対する支援を強化する。</u>						
3 交流促進・まちづくりアイデア創出プロジェクト 「SHIMOGYO+GOOD」採択団体やまちづくり活動を行う学生や事業者、地域住民等、多様なコミュニティの方々の交流を促進する交流会等を、様々なテーマを設定して実施する。						
4 まちなかでのスポーツを通じた子育て支援（新規） スポーツ選手による子育て世代向けのアーバンスポーツ等の体験会を区内で定期的に実施する。「子どもたちが身近にスポーツを楽しむ機会の創出」、「地域への愛着の醸成」、「子育て世代のコミュニティ形成」を図ることで、『子育てに魅力のある下京区』を発信し、定住促進を目指す。						
5 下京区民“支え合い・絆づくり”支援事業（下京区ふれあい事業） 区民の絆をより一層深めるため、地域の魅力発見等を通じて、幅広い年齢層の区民がつながり、支え合い、絆を深める事業を実施する。						
[参考（他都市の状況・事業効果など）]						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

南区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	12,174 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	南区役所 地域力推進室(681-3417)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 南区ならではの“みなみ力（地域力）”をまちづくりの基盤として、区役所が結節点となって人と人とのつながりを育み、多層的な支え合いの中でいつまでも安心して暮らすことができるまちを目指して重点的に取り組む。 特に、区 Hub を通じて京都学藝衆をはじめ多様な主体とともに「居場所」と「出番」を創出し、区民同士のつながり、結びつきを促進するほか、地域防災力の強化、自治会・町内会未加入のマンション等を対象に自治会・町内会への加入の促進、安心して子育てができる環境づくりの推進、健康づくりを通じた居場所づくりと参加支援の取組について積極的に進める。						
<b>[事業概要]</b> 1 <u>地域防災力強化「避難所体験型研修」事業（充実）</u> 大規模災害の発生直後に、地域住民が主体となり避難所を開設・運営できる体制を構築するため、住民（自治会・自主防災会等）と協働で体験型研修を実施する。 2 地域ぐるみでの子育て支援の推進 大型商業施設や子育て支援ルーム「すくすくみなみ」等を拠点とした親子同士の交流促進・相談の場づくりを行う。防災や乳幼児の事故防止に係る啓発など、子どものいのちを守るための取組を充実する。 3 健康長寿推進事業（充実） 若い世代や働き世代を中心として乳がん検診や食育セミナー等を掲載したリーフレットの配布や出前教室等での健康講話の実施により、健康づくりを重点的に普及啓発し、健康への意識の向上を図るとともに、健康づくりを通じた居場所づくりと参加支援を目的とした取組を実施する。 4 <u>マンション等への自治会加入PR事業（新規）</u> 新規に建設されるマンションや自治会・町内会未加入のマンション等を対象に、加入によるメリット等を紹介する「押しかけ講座」を開催することにより、自治会・町内会加入を我が事として感じてもらう機会を創出し、自治会・町内会加入の促進につなげる。 5 <u>まちづくり、はじめの一歩応援事業（仮称）（新規）</u> 全ての人に「居場所」と「出番」のあるウェルビーイングなまちづくりに向け、南区内においてまちづくり活動のはじめの一歩を踏み出す方に対して、資金面からの支援を行う。 6 <u>「地域コミュニティ Hub」の推進（新規）</u> 区役所が区民や地域の多様な主体とのつながり、交ざり合いを促進し、結節点となることを目指し、「地域コミュニティ Hub」事業を実施する。 <b>[参考（他都市の状況・事業効果など）]</b>						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

右京区役所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	22,216 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	右京区役所 地域力推進室(861-1264)					
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>区役所が、地域団体やまちづくり活動団体、企業・大学・医療機関等の右京ファンクラブ会員、大学生等が出会い、つながり、交ざり合う「結節点」となり、右京区が持つ文化・自然・産業などの潜在的な力を高め、すべての人に「居場所」と「出番」を創出できるよう取組を進めていく。</p> <p>特に、「みんなでつくる右京の推進」、「右京子どもの未来応援事業」、「京北地域の活性化、魅力発信の取組」の3点について、より力を入れて取り組む。</p>						
<p>[事業概要]</p> <p>1 「みんなでつくる右京」の推進</p> <p>区役所が、地域団体やまちづくり活動団体、企業・大学・医療機関等の右京ファンクラブ会員、大学生等が出会い、つながり、交ざり合う「結節点」となり、すべての人に「居場所」と「出番」を創出する取組を進める。また、<u>区役所の公共空間を活用し、右京区のまちが育んできた文化・芸術、祭り、スポーツなど幅広い分野の担い手による多様な魅力に触れ、学び合う機会を提供する（京都学藝衆構想）</u>。これらの取組と地域コミュニティ Hub の推進により、右京区の潜在的な力を高め、区民の交流を深める。</p> <p>2 右京子どもの未来応援事業</p> <p>赤ちゃん訪問や乳幼児健診等の機会を活用し、子育て支援団体の情報に触れやすくすることや、地域での子育て支援や見守りの中心となる右京子どもはぐくみサポーターとの交流の機会を増やしていく。また、地域の子育て支援施設等と公共空間を活用した取組（「あったか子ども広場（仮称）」）を実施するなど、地域に根差した子育て情報の発信と連携で、地域全体で子どもを育むまちづくりを目指す。</p> <p>3 京北地域の活性化、魅力発信の取組（京北地域活性化支援事業 他）</p> <p>少子高齢化と人口減少に直面する京北地域において、<u>未来の担い手を育成し、持続可能な発展に取り組む。京北子どもフェスタ「ミニ京北」（仮称）をはじめとする事業を通じ、各種団体や事業者等と連携して実施し、子どもたちの地域への愛着を育み、多世代交流によるコミュニティの活性化を図る。</u>これにより、防災力の強化、新たな魅力の創出、U・Iターン等の促進に繋げ、京北地域一体での発展を追求する。</p>						
[参考（他都市の状況・事業効果など）]						

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

西京区役所・洛西支所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	22,982 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	西京区役所 地域力推進室(381-7158) 洛西支所 地域力推進室(332-9185)					
<b>[事業実施に至る経過・背景など]</b> 西京区では、京都基本構想を念頭に、区役所・支所が「結節点」となり、すべての人の「居場所」と「出番」を創出し、地域活動における「つなぐ・むすぶ・交ざり合う」取組を通じて「新しい公共」を推進する。 これに当たり、令和8年度に迎える区制50周年・洛西ニュータウンまちびらき50周年を契機として、洛西“SAIKO”プロジェクトの推進や、地域の多彩な学藝を取り巻く方々との連携のほか、地域課題・特性に応じた取組を積極的に創出する。また、都市としての西京区の更なるブランディングを図ることで、関係・交流人口、定住・移住人口の増に繋げ、「選ばれるまち—西京区」の実現を目指す。						
<b>[事業概要]</b> <西京区役所> 1 <u>西京区制50周年事業（新規）</u> 記念誌の作成や地域の多彩な学藝を取り巻く方々との連携を通して、西京区の魅力・強みをより一層区内外に発信することで、「選ばれるまち—西京区」の実現を目指す。 2 <u>防災、子育て等を切り口とした自治会加入促進事業（新規）</u> 地域住民同士が触れ合う機会や地域活動において、地域住民の生活に深くかかわる防災、子育て等を切り口とした、自治会の活動内容や生活に関わっている取組に触れる機会を増やす。これにより、自治会加入を促す機会を創出し、地域同士の交流を深めることによる「定住」の促進に繋げる。 3 <u>西京区のブランド構築・プロモーション事業</u> 地元自治連や地元店舗、鉄道事業者、地域企業、子育て団体、京都市観光協会等と連携のうえ、エリアブランディングのためにぎわい創出事業（にしきょう CONNECT）を実施し、それらを区内外へ発信することで、関係・交流人口の創出、ひいては、定住・移住の促進に繋げる。 <洛西支所> 4 <u>洛西ニュータウンまちびらき50周年記念事業（新規）</u> 行政・企業・住民が連携して、これまでの50年の歩みを振り返るとともに、未来につながる持続可能なまちづくりと地域コミュニティの活性化を図る事業を展開していく。 (1) 洛西ニュータウンメモリアル展 50年前のまちびらき当時の写真展や映像の放映等を行い、洛西ニュータウンのあゆみを振り返るとともに、地域への愛着と住民同士の交流を深める。 (2) 洛西健康EXPO2026 地域住民が自身の健康を改めて見つめなおす機会を提供することと地域交流の促進を目的に、医療・健康分野の専門機関、企業等と連携し、専門医による講演や最新技術を活用した体験・測定ブースを設置したイベントを公民連携で実施する。 (3) 洛西おでかけサポート実証実験（洛西のんびりライド） 高齢化の進む洛西地域において、買い物や散歩等の移動支援のニーズ把握と移動手段の多様化に向けて、次世代パーソナルモビリティを用いた高齢者等のおでかけ支援の実証実験を行う。						

[参考（他都市の状況・事業効果など）]

# 令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

伏見区役所・深草支所・醍醐支所

事務事業名	京都ならではの地域力を活かした協働型まちづくり 「区 Hub によるまちづくり推進事業」					
予 算 額	34,675 千円	新規・充実・継続の別	継続			
担 当 課	伏見区役所 地域力推進室(611-1295) 深草支所 地域力推進室(642-3125) 醍醐支所 地域力推進室(571-6105)					
[事業実施に至る経過・背景など]						
京都基本構想に掲げる理念のもと、伏見区役所では、伏見区が紡いできた歴史と文化、自然との共生、人とのつながりを大切にしながら、誰もが安心安全を実感でき、学び、つながることのできるまちづくりを推進する。						
[事業概要]						
1 伏見魅力発信パートナー制度（新規）三所	伏見の奥深い魅力発信と地域資源の発掘のため、伏見の魅力を発信する講座やワークショップなどの企画・運営を意欲的に行う団体をパートナーと認定し、パートナーが実施する企画に対し、必要な資源（場所、人材、広報支援など）を提供する。					
2 わくわく学び塾 「ふしみどころ」（新規）三所	区内企業等と連携し、伏見ならではの歴史や文化、芸術、産業等をテーマに伏見の魅力を再発見する学び・体験の場を提供することで、未来を担う子どもや若者をはじめ、誰もが学び続けられる取り組みを進める。					
3 伏見まちづくり紡ぎプロジェクト（新規）伏見区役所	住民や地域団体、学生、大学、企業など伏見に集う多様な主体がつながり、交ざり合う機会を多層的に創出し、地域の自主的な活動を一層促進する。					
4 深草ファンによる地域活性化プロジェクト（新規）深草支所	深草ファンを起点とした地域主体のまちづくりを推進し、深草のまちで培われてきた学藝を、セミナーやワークショップで体感することにより未来に紡ぐ。					
5 みんなで創るワクワクだいごプロジェクト【meetus 山科-醍醐関連事業】醍醐支所	人口減少が顕著な醍醐のまちの今後に向けて、多様な人々とのつどいや交ざり合いの場を創出し、まちづくりについて議論するとともに、地域の魅力を再発見・発信する取組を実施する。併せて、地域の「絆」で子育て家庭を支える環境づくりを推進し、若者・子育て層の定住・移住につなげる。					
（住むまち・醍醐の魅力再発見事業、特色ある学習・体験プログラム創出事業、子育てしやすいまち・子どもをはぐくむまち醍醐など）						
[参考（他都市の状況・事業効果など）]						